

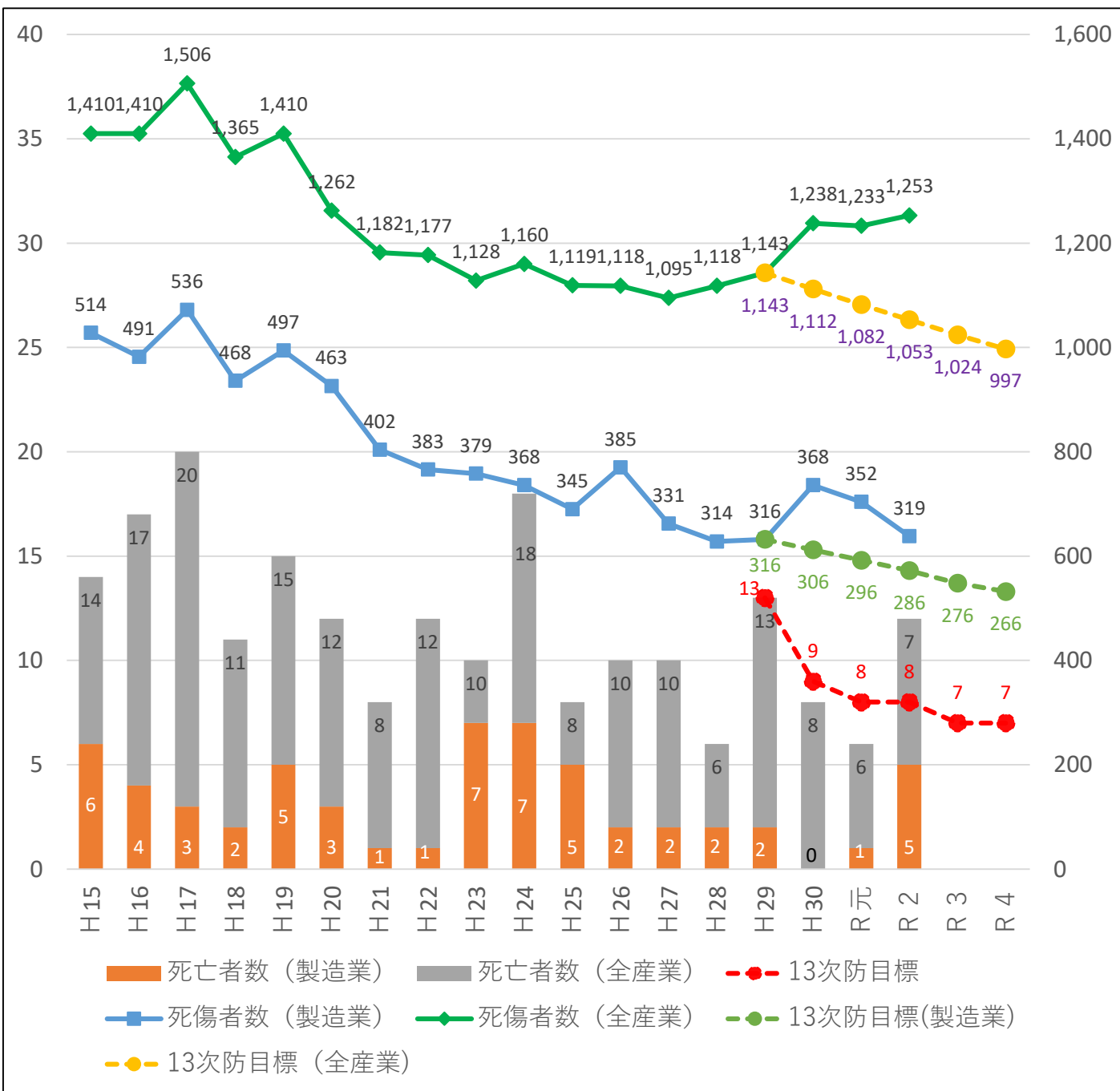
1 死亡災害発生状況（図1）

製造業での死亡者数は令和元年は1人であったが、令和2年は5人と大幅に増加した。

2 死傷災害発生状況（図1）

製造業の死傷者数（休業4日以上）は319人で、令和元年の352人に比べ33人（9.4%）減少した。

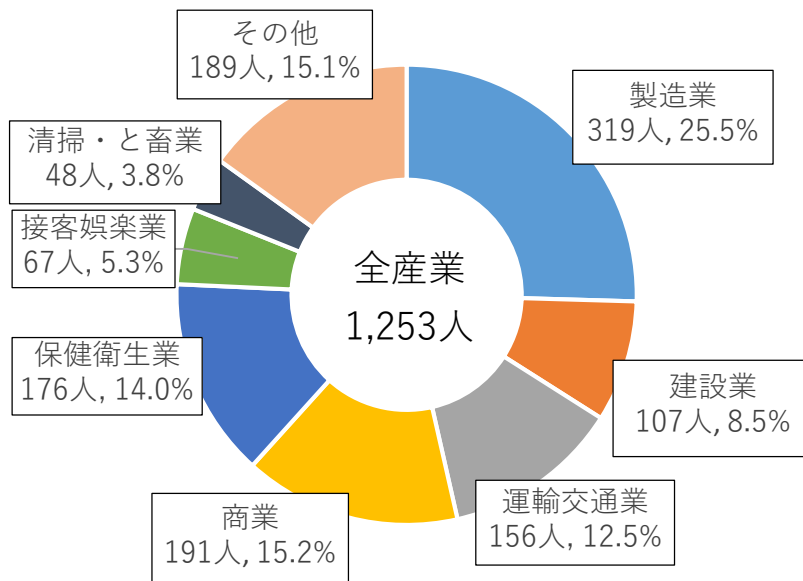
しかし、第13次労働災害防止計画の令和元年の目標値（286人）と比べると+33人（+11.5%）で、目標達成に向け、労働災害防止に係る更なる取組が必要である。



3 業種別の災害発生状況（図2）

製造業が最も多く319人（25.5%）を占めている。

図2 業種別の発生割合

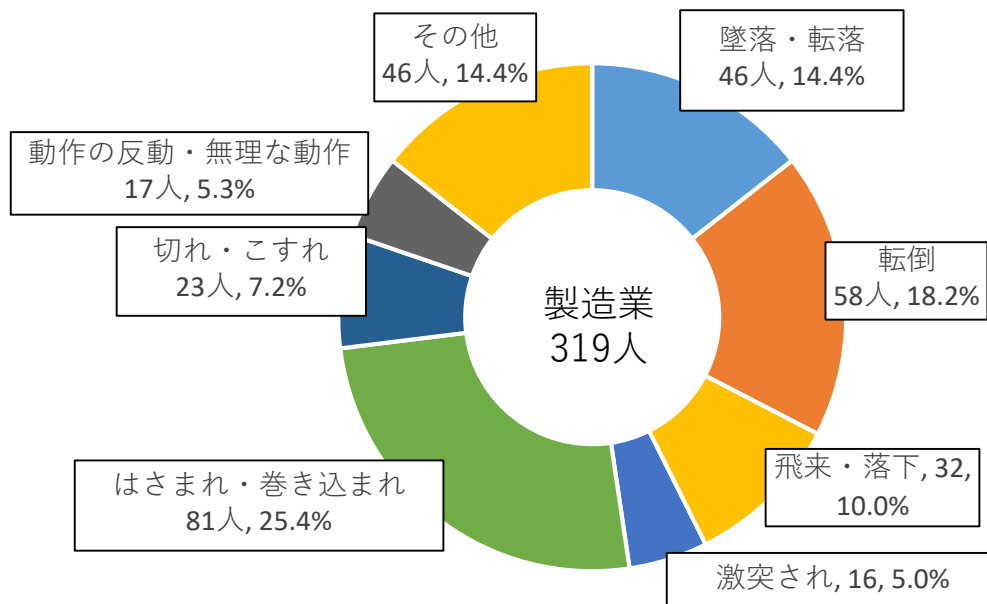


4 事故の型別の災害発生状況（図3、4）

「はさまれ・巻き込まれ」が最も多く、全体の25.4%（81人）を占めている。

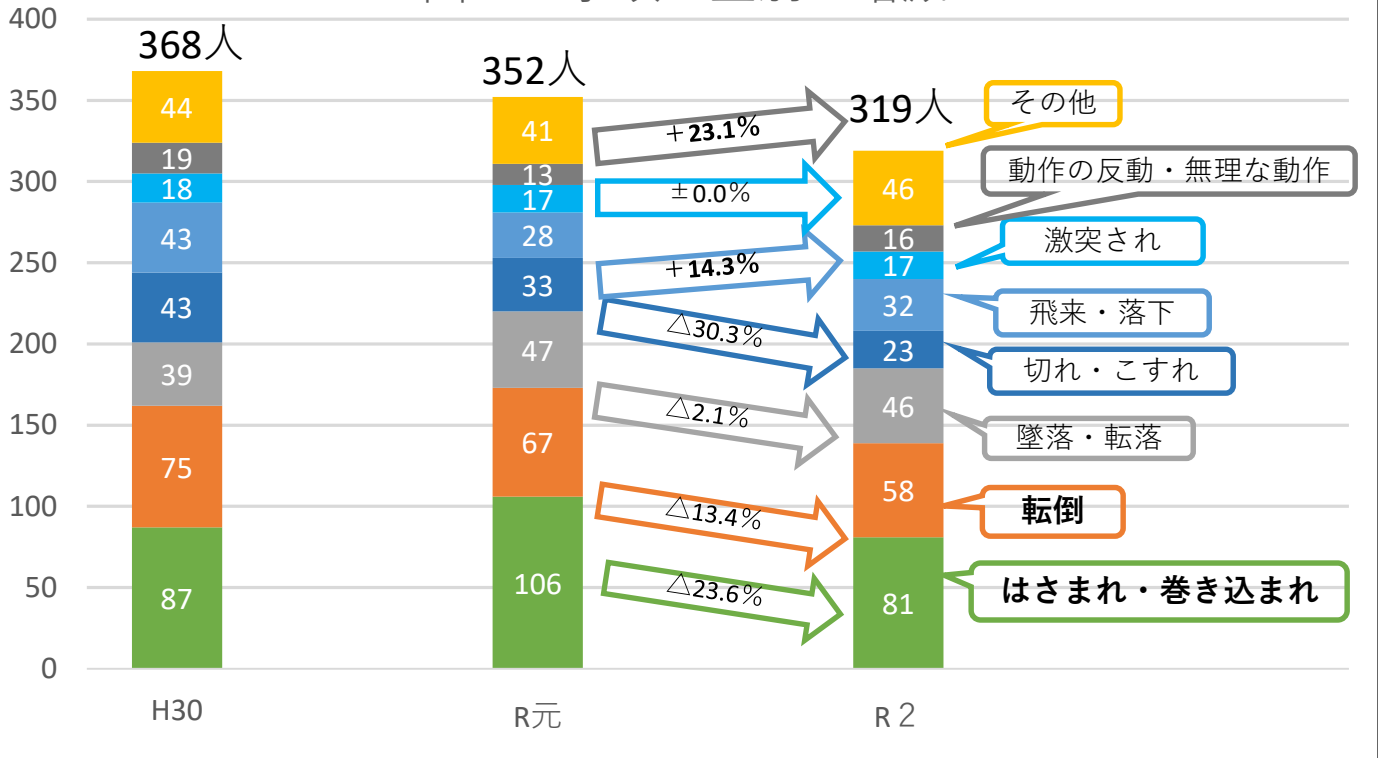
次いで、「転倒」58人（18.2%）、「墜落・転落」46人（14.4%）となっている。

図3 事故の型別の災害発生状況



令和元年と比較すると、「はさまれ・巻き込まれ」-25人（-23.6%）、「転倒」-9人（-13.4%）、「切れ・こすれ」-10人（-30.3%）と大幅に減少しているが、「飛来・落下」4人（14.3%）、「動作の反動・無理な動作」3人（23.1%）が増加している。

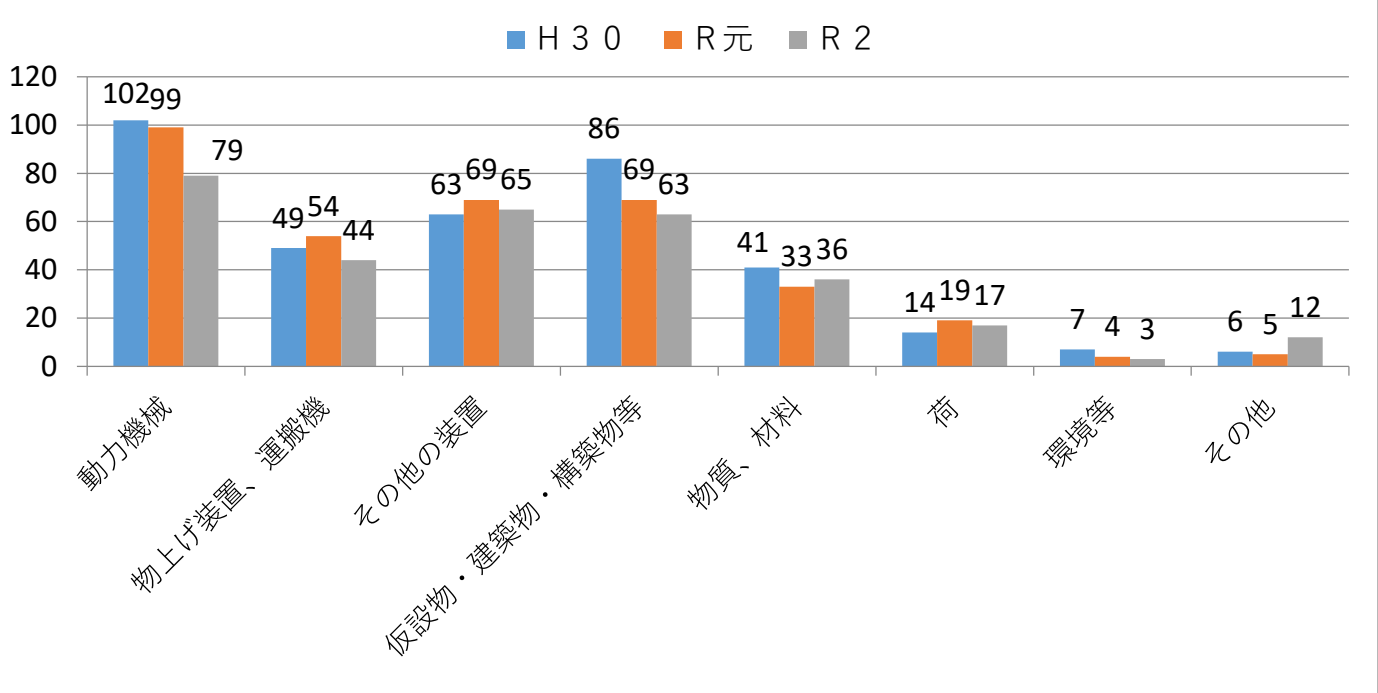
図4 事故の型別の増減



5 起因物別の災害発生状況（図5）

「動力機械」（79人、24.8%）による労働災害が最も多くを占めている。

図5 起因物別の災害発生状況



6 事故の型別・起因物別の災害発生状況

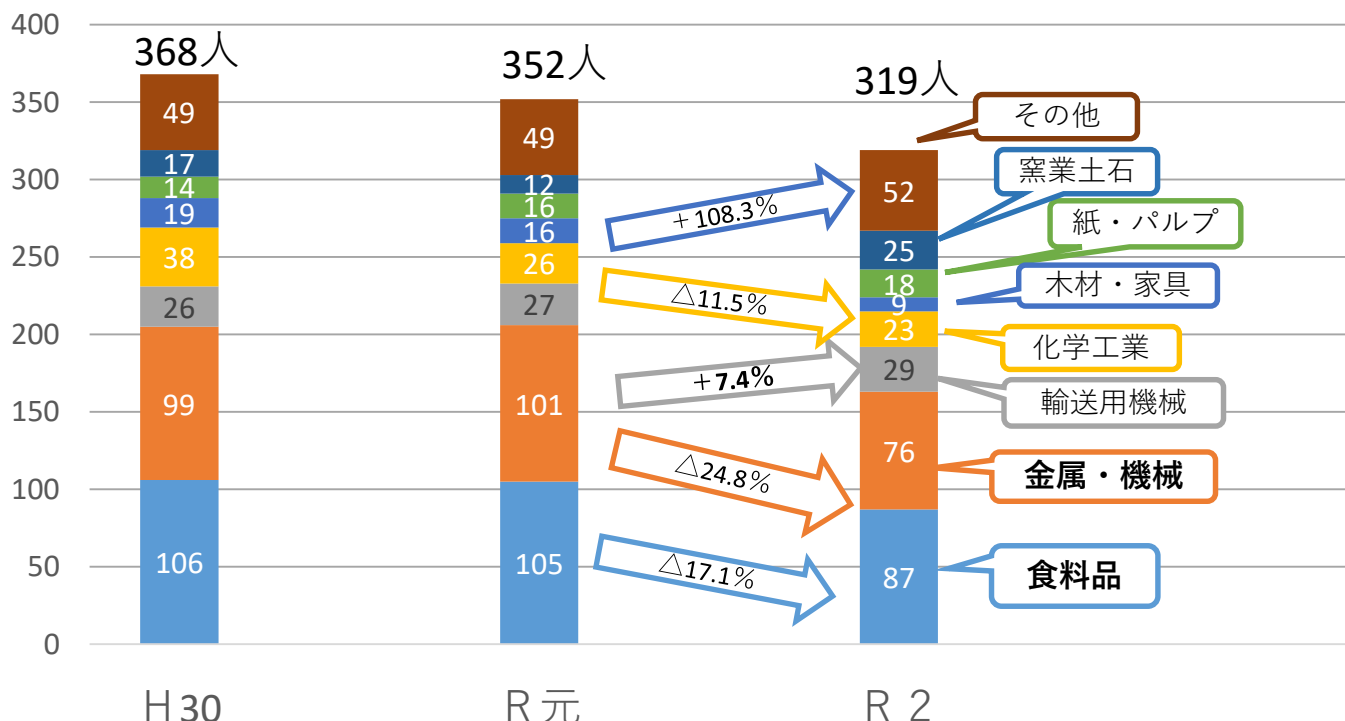
「動力機械によるはさまれ・巻き込まれ」が44人（13.8%）と最も多く、次いで「仮設物・建築物・構築物等での転倒」36人（11.3%）となっている。動力機械による「はさまれ・巻き込まれ」と「切れ・こすれ」を合計すると64人（20.1%）となっている。

	動力機械	物 上 げ 装 置 ・ 運 搬 機 械	そ の 他 の 装 置	仮 設 物 ・ 建 築 物 ・ 構 築 物 等	物 質 ・ 材 料	荷	環 境 等	そ の 他
墜落・転落	3	7	17	18		1		
転倒	2		12	36	1	4	1	2
飛来・落下	5	6	8	1	9	3		
激突され	3	3	5		3	1	1	
はさまれ・巻き込まれ	44	21	9	2	4	1		
切れ・こすれ	20				3			
動作の反動・無理な動作			2	2	1	6		6
その他	2	7	12	4	15	1	1	4

7 業種別（中分類）の災害発生状況（図6）

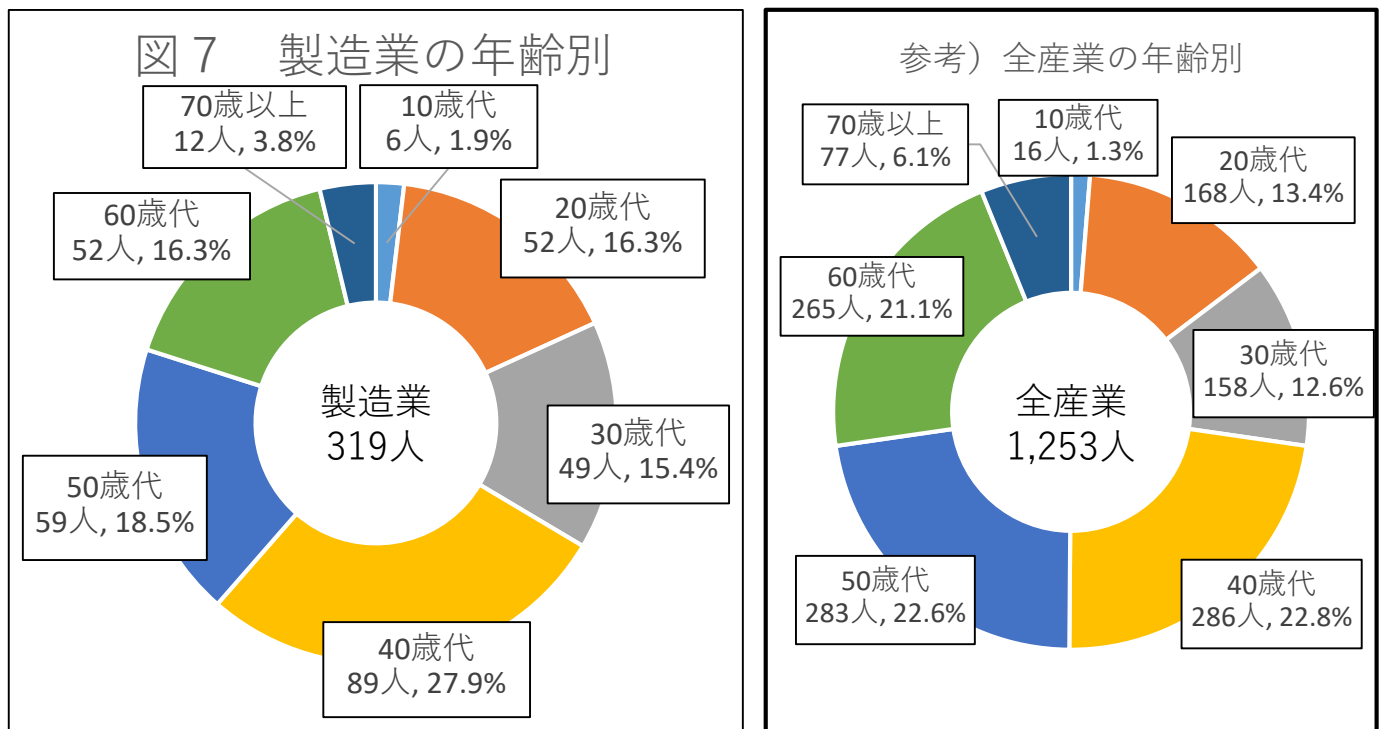
食料品製造業87人（27.3%）が最も多く、食料品、金属製品及び一般機械を合計すると163人で全体の5割以上を占めている。

図6 業種別の災害発生状況



8 年齢別の災害発生状況（図7）

全産業（平均）と比べると、50歳以上の高年齢労働者の割合が低く、若年層が多くなっている。

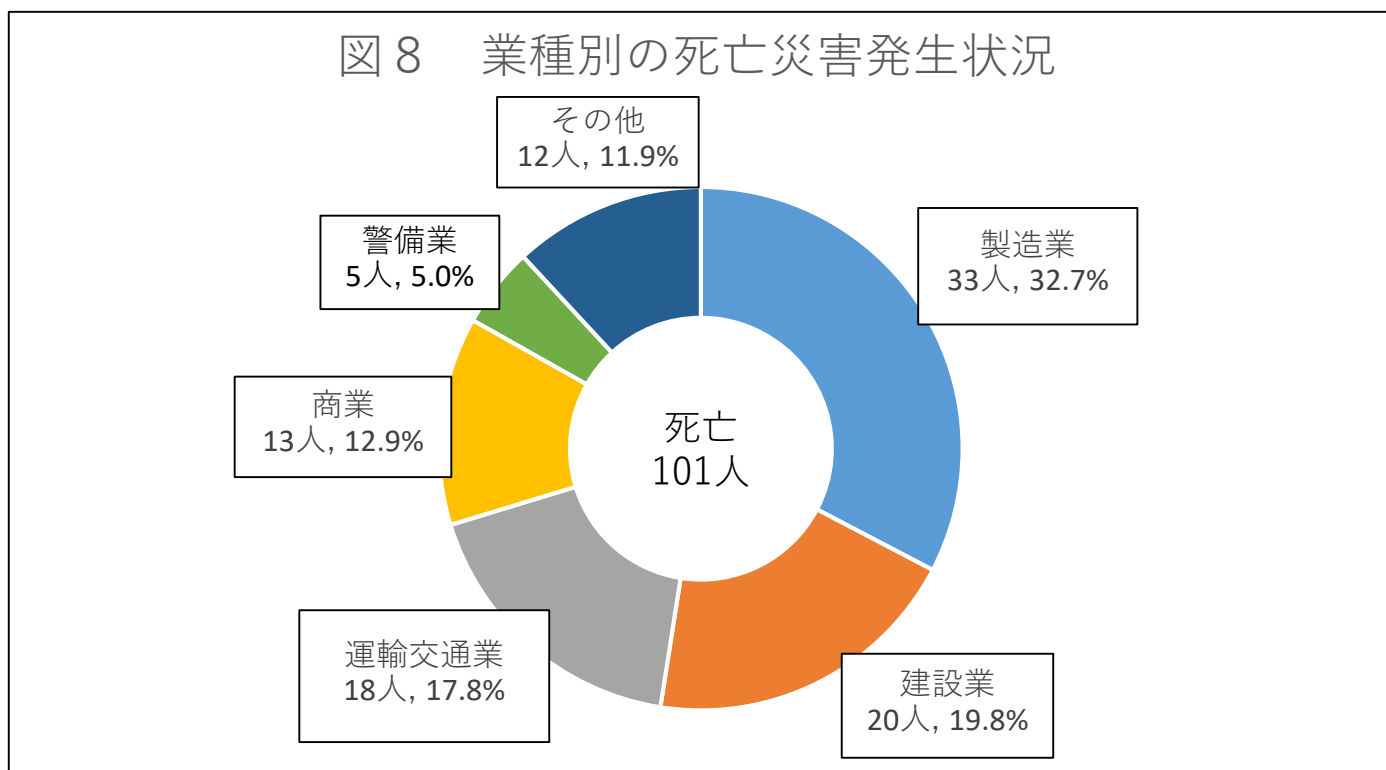


9 過去10年間（平成23年から令和2年）の死亡災害発生状況

死亡者数は、過去10年間で101人。

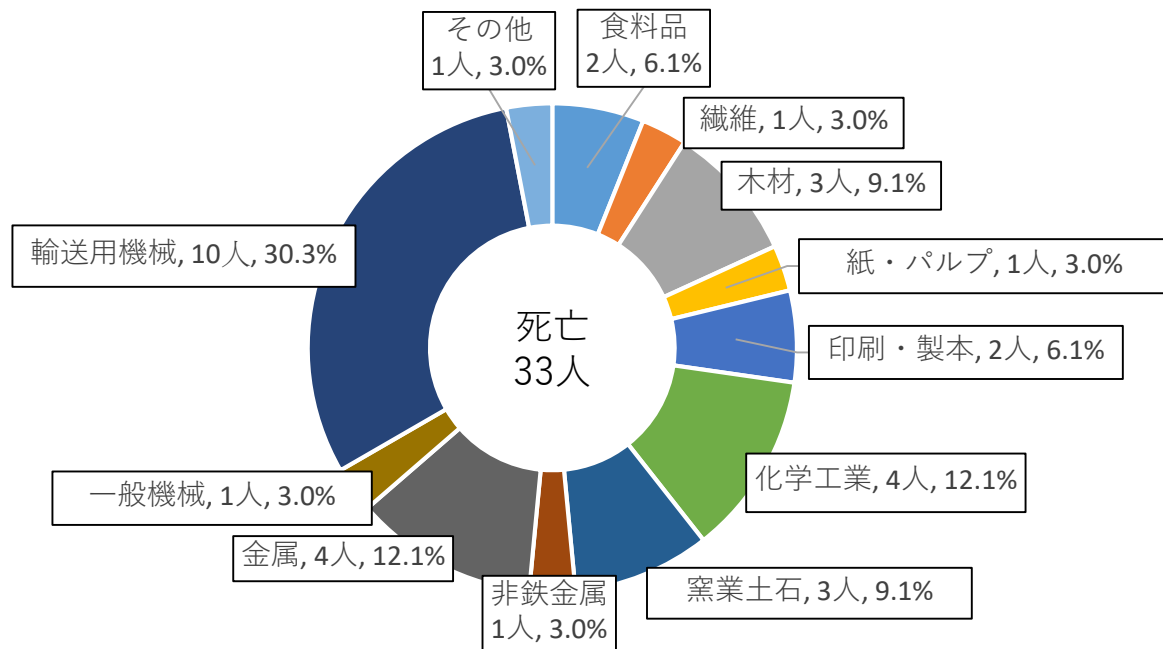
① 業種別の死亡災害発生状況（図8）

製造業が33人（32.7%）と最も多く、次いで建設業の20人（19.8%）、運輸交通業の18人（17.8%）の順となっている。



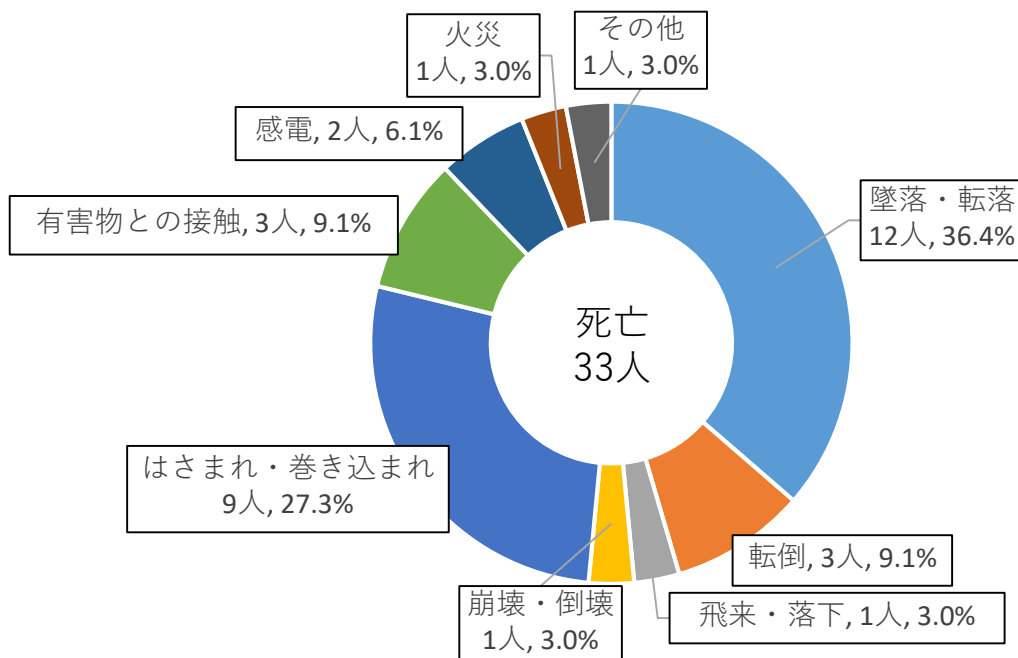
- ② 業種別（中分類）の死亡災害発生状況（図9）
 製造業29人のうち、輸送用機械等製造業（造船業）が10人（30.3%）と最も多く、次いで化学工業及び金属製品製造業がそれぞれ4人（12.1%）の順となっている。

図9 業種別（中分類）の死亡災害発生状況



- ③ 事故の型別の死亡災害発生状況（図10）
 「墜落・転落」が12人（36.4%）と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」9人（27.3%）となっており、この2つの事故の型で全体の63.6%を占めている。

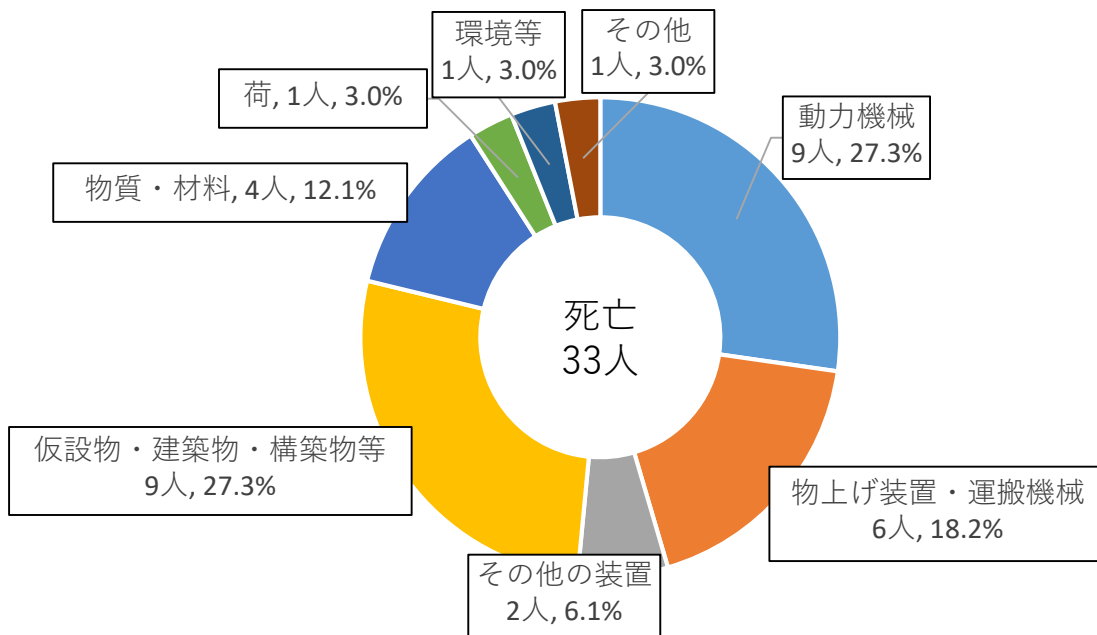
図10 事故の型別の死亡災害発生状況



④ 起因物別の死亡災害発生状況（図11）

「動力機械」、「仮設物・建築物・構築物等」がそれぞれ9人（27.3%）と最も多く、次いで、「物上げ装置・運搬機械」6人（18.2%）の順となっている。

図11 起因物別の死亡災害発生状況



⑤ 事故の型別・起因物別の死亡災害発生状況（図12）

「動力機械によるはさまれ・巻き込まれ」、「仮設物・建築物・構築物等からの墜落・転落」による災害が最も多くなっている。

図12 事故の型別・起因物別の死亡災害発生状況

